

## 多文化共生のまちづくり市民委員を募集します

問 市民協働推進課 (☎65-8711)

3月に策定した「長浜市多文化共生のまちづくり指針」をもとに、多文化共生や国際化に向けたまちづくりを進めるための行動計画を策定するにあたり、市民会議の委員を募集します。

【対 象】 市内在住または在勤の18歳以上で、多文化共生などに関心のある人

【募集人数】 2人以内

【活動内容】 2回程度開催する会議への出席(報酬有)  
【任 期】 行動計画策定まで(平成25年10月を目途に策定)

【応募方法】 応募用紙に必要事項を記入し、持参・郵便・FAX・Eメールのいずれかで提出ください。

【提出期限】 6月21日(金)必着

### 一 応募先

市民協働推進課(本館2階)  
〒526-8501 高田町12番34号  
☎64-0396  
✉kyoudou@city.nagahama.lg.jp  
※応募用紙は市民協働推進課および各支所地域振興課にあります。市ホームページからダウンロードすることもできます。

## Bonjour ボンジュール ながはま

～フランス語でおしゃべりしましょう～

入門レベルの仏語講座です。毎回テーマに沿った表現を学び、会話を楽しみましょう。

回	日程	テーマ
1	6月25日(火)	「挨拶」&「自己紹介」
2	7月2日(火)	「スィル・ヴ・プレ」を使って注文する
3	7月9日(火)	「ジュ・ヴドレ」を使って、したいことを丁寧に言う
4	7月23日(火)	場所を訪ねる・好きなことを言う
5	7月30日(火)	Allons à Paris! (パリへ行きましょう!)

時間は毎回14時30分～16時です

【ところ】 国際文化交流ハウスGEO (神照町)

【参加費】 1回 1,000円(コーヒー、菓子付き)  
5回すべて受講する場合は4,000円

【定 員】 各回8人(先着順)

【申込み】 各開講日の3日前までに電話・FAX・Eメールのいずれかで下記まで

問 申 NPO法人長浜市民国際交流協会  
☎/☎63-4400  
✉nifa\_info@ybb.ne.jp



## ブラジルサラリーマンのランチ



長浜市国際交流員  
工バートン

皆さんこんにちは!

今回はブラジルのランチ事情を紹介します。

近年、ブラジルのビジネス街やショッピングモールのレストラン街でよく、はかりを見かけるようになりました。理由は「Por quilo (ポール・キーロ)式」レストランの急増です。

ポールキーロレストランは日本のビュッフェと似たような形式で、好きなものを自由に盛り合わせることができます。ただし、盛り合わせてから、テーブルへ行って食べるではありません。その前に、料理の重さを量ります。つまり、食べる分だけ支払う形式で、日本でも大学の食堂などでは、なじみのある形式です。

ポールキーロ以外に、決まっているメインのおかず

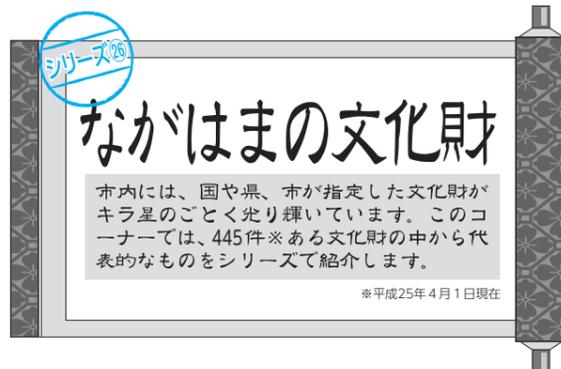
に加え、ご飯やサラダが自由に食べられる店もあります。こちらは、日本のラーメン屋さんの替え玉に似ていると思います。

こうした形式なら、食べ残しを減らし、ウエイターの人件費を抑えることもできるため、安くランチを提供することができます。お客さんには大変ありがたい仕組みです。

☆ワンポイントポルトガル語講座☆  
ヘスタウランチ  
Restaurante → レストラン



問 市民協働推進課 (☎65-8711)



## ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、445件※ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

※平成25年4月1日現在

### 長浜市指定文化財 木造不動明王坐像(大聖寺不動堂) (大門町)

平成25年3月27日指定

不動堂は下草野五山のひとつ、神道山大聖寺の本堂だった場所に建つとされる堂舎です。現在の不動堂は江戸時代の再建ですが、かつては本堂から延びた参道の両脇に寺房が立ち並び、集落の入口には字名の由来となった寺の大門があったと考えられています。小谷寺所有の孔雀文磬(1263年作、重要文化財)や、不動堂所有の鯛口(1296年作)の銘文に大聖寺の名が見られることから、鎌倉時代には寺が存在していたことが知られます。戦国時代の記録には大聖寺が48坊を有したと記されていますが、その後織田信長の兵火により廃絶し、不動明王を安置する一小堂のみとなったといわれています。



この大聖寺の威容と隆盛を偲ばせるのが、不動堂中央厨子内に安置される本尊・不動明王坐像です。

本像は、まず



真言系寺院で隆盛した不動明王像の姿を伝えることが特徴です。不動明王には天台系の「十九観不動」といって、パーマ状の髪形(巻髪)で片方の眼をすかめ(天地眼)、牙を上下に出す(牙上下出)ものがありますが、本像はストレートの髪形(総髪)で左側に髪を束ね(弁髪)、両目を大きく見開いた怒りの眼差し(瞋目)を表し、上の歯列で下唇を噛みしめます。これは空海がもたらした不動明王の様式とされ、「弘法大師様」と呼ばれます。

次の特徴は、平安時代の雄壮かつ洗練された作風を示すことです。顔っぱいに大きく目鼻立ちを配した厳しい表情で、胸や腹の括れを深く彫り込みます。特に陰しく寄せた眉根から切り立った鼻を経て、頬を隆起させる肉取りは圧巻です。その一方で、肩幅や

膝張に比べると意外なほどに胸や腹の奥行を浅めに取り、整えられた衣の皺や襷(衣文線)も浅く柔らかな表現とすることから、平安時代後期(11世紀後半)の作と考えられます。

そして最大の特徴は、なんといつでもその大きさです。仏像の高さは丈六(一丈六尺、立像で約4・8メートル)を一つの基準とします。本像は像高135センチメートルの坐像であることから、その半分のサイズ、半丈六を基準としているといえます。これは滋賀県下では東門院(守山市)の不動明王坐像に次いで2番目に大きく、国指定文化財の不動明王坐像に照らし合わせてみても10番目の大きさを誇ります。この大像にキリ材を用いている点も見逃せません。

湖北地域に類を見ない大きさと、洗練された力強さをもつ不動明王像は、今後長浜を代表する仏像の一つとなっていくことでしょう。

問 文化財保護センター  
(☎64-0395)